

三十九番 原田誠之でございます。

私から、本委員会において、重点的に調査・研究を進めてまいりました四年制大学の誘致についてのうち、長野県短期大学の四年制化について中間報告をいたします。

長野県は、新たな公立四年制大学の設置に向けて、「本年四月には県立大学設立準備室を新設し、夏頃には基本構想を策定する」としております。本市の長年の悲願であった四年制大学が本市に設置され、魅力ある大学が開設されることを切に願っております。

本委員会では、県における本格的な検討がスタートする状況において、市民の要望を受け、これを絶好の機会と捉え、県の動向を把握しつつ、長野県短期大学に向いて学長や同窓会（六鈴会）の皆様との意見交換の実施、また他の公立四年制大学への行政視察などを通じて、これからの四年制大学があるべき大学像について、精力的かつスピード感のある調査・研究を進めてまいりました。

そこで、本委員会において、一定の方向性を出したことから、次の四点について提言するものであります。

一つ目として、長野県の議論への参画等についてであります。

これは、長野県との情報交換を密にするとともに、これから述べる三つの観点を踏まえながら、基本構想策定などの議論に積極的に参画できるよう県に対し要請するとともに、進捗状況に応じて、本市の支援体制を整えることでもあります。

二つ目として、求める人材及び新たな学部学科の設置についてであります。

これは、住民自治や地域主体の産業・経済を主導していくための企画立案ができる人材や本市の自然環境などを生かした地域づくりに主体的に関わることができる人材の育成に重点を置いた新たな学部学科を設置することでもあります。

この趣旨は、一つには、近年、本市のみならず、長野県全体で、少子高齢化や人口減少の進行に伴い、地域活力の低下が懸念されており、また、中山間地域や山村の活力低下、中心市街地の空洞化、コミュニティの崩壊など、様々な課題に直面していることから、これらの地域が抱える課題解決に対応できる人材が必要と考えます。

また、豊富な自然環境を生かした農林業の振興、再生可能エネルギーの導入、地域観光資源の活用など、長野県の強みを生かした活力ある地域づくりを進めるために主体的に関わることでできる人材も必要と考えます。

この実現に向けまして、キャンパスは地域にという考えに基づき、フィールドワークを通じて、地域を知り、また地域を考えるとといった地域密着型の人材が育成できる学部学科を設置すべきであるとしたものです。

これは、地域づくりに向けた役割の一つを担うとともに、本市と連携しながら、地

域が抱える課題解決に資する教育・研究を行うことにより、シンクタンクとしての役割も期待できます。

三つ目として、定員や施設等の規模についてであります。

設置場所については、既存施設の活用を前提とし、新たな場所が必要になった場合は、市内において適切な場所の確保に努めること、また、学生の定員や施設等の規模については、過度な住民負担が発生することのない適正規模となるよう十分考慮することでありませう。

この趣旨は、今後、少子化が進行する中で、県内外から評価される魅力ある大学として持続的に発展するためには、本市の冬季オリンピック・パラリンピック開催都市としての知名度の高さや、ある程度の人口規模・都市機能等が必要と考えるからであります。

なお、八十二年という長い歴史の中で、多くの卒業生の皆さんの意向も配慮する必要があるとあります。

四つ目として、長野市大学整備基金を積極的に活用することでありませう。

市は、これから四点の提言について、実現に向け最大限努力するよう要望いたします。

最後に、長野県短期大学の四年制化について、長野県の動向を注視しつつ、今後引き続き調査・研究を進め、機を逃すことなく、より具体的な提言をしてまいりたいと考えております。

以上、報告を終わります。